

福島県立医科大学
令和7年度医学部総合型選抜
海外教育プログラム選抜

【解答例】

総合問題Ⅱ

解答例の公表に当たり、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、「出題の意図又は複数の若しくは標準的な解答例等」を公表することとしています。

また、記述式の問題以外の問題についても、標準的な解答例として正答の一つを示している場合があります。

総合問題Ⅱ解答用紙

(7枚のうちの2)

受験番号

問1
(4)

10
20
100
200
300
400

※全能の幻想についての正解例

全能の幻想とは、絶望感を伴う深い孤立感、無価値感、強烈な怒り、諦めといった苦痛を伴う感情に圧倒され続けてきた人にとって、自殺が、現在自分に実行可能で、苦痛から逃れられる唯一の手段だと考えることを指す。これは、真っ暗なトンネルの中で一条の光がみえて、闇から出られる唯一の手段だと考えるような心理的視野狭窄といえる状況であり、実際には他の手段があっても当人には見えていないので、幻想と表現されている。

※自分が全能の幻想に陥らないために気をつけること

「絶望感を伴う深い孤立感、無価値感、強烈な怒り、諦めといった苦痛を伴う感情」から自分なりに逃れる手段について記載があればよい。例えば、孤立しないように親友に相談し、その答えを尊重する。他者の意見を取り入れて、自分の気持ちと折り合うこと。

「心理的視野狭窄に陥って、自殺以外に他に手段がない」と思い込まないための手段について自分なりに逃れる手段について記載があればよい。例えば、自分が自殺することで周囲がどのように感じるかを想像する。親友がいまの自分と同じ状況に陥って、助けてほしいと言われたときに、自分がどのように行動するかを想像する。自分の苦境を訴えて、自分を助けてくれる人がいることを理解する。

計
点

総合問題Ⅱ解答用紙
(7枚のうちの3)

受験番号

問〔1〕
2

(1)

①	紡績	②	勧誘	③	錬成・練成 (ともに可)	④	じゅくれんこう	⑤	思索
---	----	---	----	---	-----------------	---	---------	---	----

(2)

③ 一か八か

(3)

与え得る	と	い	う	こ	と	。	自	分	の	人	生	を	規	定	す	る	だ	
け	で	な	く	、	周	囲	の	人	々	の	進	路	選	択	に	も	影	響
自	分	が	選	ぶ	進	路	が	、	自	分	の	人	生	を	規	定	す	る

(4)

は	、	長	く	自	分	の	そ	ぼ	に	お	い	て	い	た	い	。	可	能	な	時	間
き	る	だ	け	お	い	し	い	も	の	を	食	べ	さ	せ	て	、	喜	ば	せ	せ	せ
か	わ	い	い	孫	娘	が	自	分	の	も	と	を	離	れ	て	働	き	に	行	行	行
く	こ	と	が	寂	し	く	て	、	別	れ	が	た	い	。	せ	め	て	、	で	で	で

計
点

総合問題Ⅱ解答用紙

(7枚のうちの4)

受験番号

問〔1〕
(5)

	つ	そ	工	て	孫
	い	う	に	ほ	娘
	て	し	な	し	た
	い	た	る	く	ち
	け	就	と	な	に
	な	業	は	か	対
	い	を	思	っ	し
	と	も	い	た	て
	い	た	も	し	は
	う	ら	よ	、	職
	思	し	ら	孫	工
	い	た	な	娘	と
	。	社	か	が	い
		会	っ	ふ	う
		の	た	た	職
		変	。	り	業
		化	そ	と	に
		に	し	も	は
		は	て	、	就
		、	、	職	い

10

20

100

(6)

	別	表	で	作	自
	れ	す	受	っ	分
	を	と	け	て	の
	惜	と	入	く	誕
	し	も	れ	れ	生
	む	に	た	た	日
	気	、	こ	も	を
	持	旅	と	ん	祝
	ち	立	を	ペ	っ
	。	つ	示	を	て
		迪	し	は	孫
		子	て	く	娘
		の	、	こ	た
		身	感	と	ち
		を	謝	で	が
		案	の	、	心
		じ	気	よ	を
		、	持	ろ	こ
		か	ち	こ	め
		っ	を	ん	て

10

20

100

計
点

受験番号	
------	--

(7枚のうちの6)

[2]

問1

(4)

疾	患	別	死	亡	率	の	男	女	比	が	高	い	が	、	2	0	0	4	年
以	降	に	低	下	傾	向	に	な	い	疾	患	は	慢	性	気	管	支	炎	・
肺	気	腫	、	が	ん	、	胃	潰	瘍	・	十	二	指	腸	潰	瘍	で	あ	り
、	こ	れ	ら	の	早	期	発	見	、	早	期	治	療	を	実	現	で	き	る
対	策	が	有	効	と	考	え	ら	れ	る	。								

120

計	
---	--

受験番号	
------	--

(7枚のうちの7)

[2]

問 2

(1)

- a. 240 年 b. 255 年
c. 90 年 d. 272 年
e. 144 年 f. 306 年

(2)

- a. 短い b. 羽化成功率
c. 幼虫生存率 d. 羽化成功率
e. 幼虫生存率

(3)

(1) の表において、17 年素数周期ゼミは他の周期ゼミに比べて交配周期が長い。図 2 のシミュレーションの結果から、素数周期ゼミは純粋な集団を形成しやすいことが示されている。これらのことから、素数周期をもつゼミは、他の周期に比べて交配頻度が低いため、素数で羽化するゼミはたとえ同じ地域に他周期のゼミが存在したとしても交配する機会が少なく、他の周期に比べて純粋な集団として維持されやすい。一方、素数ゼミと比較して交配頻度が高い素数以外の周期ゼミは、交配の結果生じる交雑種が、短い方の周期で羽化するため、時間経過とともに交配周期が短くなり、交配が進み、純粋な集団が維持されにくくなる。

計	
---	--